

■本多静六 苦学して“日本林学の父”となる多大の業績，堅実な蓄財で“明治の億万長者”となり多大の寄付。

ほんだせいろうく

薩長同盟・・・1866＝ 現在の埼玉県菖蒲町で，代々名主の折原家の六男に生まれる。

明治維新・・・1868＝ 2歳：

学問のすすめ1872＝ 6歳：学制施行に伴い小学校(校舎は幸福寺)に入学。

明治6年政変 1873＝ 7歳：

初の民間工場1875＝ 9歳：

三つの内乱・1876＝10歳： 父が大借金を残して急逝したため，
さまざまな仕事をして家計を助けながら苦学するうち，東京行きを望むようになり，

沖縄県編入・1879＝13歳： 家の借金が完済となって，許されると，
・・・・・・・1880＝14歳： 早速上京して大蔵官僚島村泰の書生となる。

明治14年政変1881＝15歳：

島村に励まされ，
岩倉具視没・1883＝17歳： 1年サバ読んで，東京山林学校に最下位ながら何とか入学。
秩父事件・・・1884＝18歳： 数学が苦手でも早くも落第するが，島村に励まされ，以後，猛勉強し，たちまちトップとなるも，
性格に問題ありと，島村に連れて行かれた骨相学者の指摘を受け，以後，鏡を置いて性格矯正に努める。

帝国大学始・1886＝20歳： 東京山林学校は駒場農学校と合併し東京農林学校となる。

国民之友始・1887＝21歳： 東京農林学校は東京農科大学と改称。

初の対等条約1888＝22歳： この年，日比谷練兵場跡地を公園とすることが決定。

帝国憲法発布1889＝23歳： 望まれて元彰義隊隊長本多晋の娘で官立学校出初的女医詮子と結婚，婿養子となって貧乏から脱却。

帝国議会始・1890＝24歳： 学長前田正名の奔走で，東京農科大学を卒業試験前に，ドイツへ自費留学。
養父が留学費を預けていた銀行が突然破産するも，儉約に努めて，ミュンヘン大学で経済学を学び，
ドクトル・エコノミーの学位を取得。西欧を視察して帰国し，東京農科大学助教授となる。
大本教・・・1892＝26歳： ドクトル・エコノミーの学位を取得。西欧を視察して帰国し，東京農科大学助教授となる。
郡司千島探検1893＝27歳： *生涯を四段階に分ける「人生計画表」を作成し，“四分の一天引き貯金”と1日1頁の文章執筆を始める。日本
鉄道に進言して，日本初の鉄道防雪林の創設に携わり，以後没するまで関与，全国に整備される。

日清戦争始・1894＝28歳： 東京専門学校(現早稲田大学)の講師となる。

日清戦争終・1895＝29歳： 提案して全国初となる大学演習林をつくり，以後，全国各地に東大演習林を拡大。

白馬会・・・1896＝30歳： 山林調査のため台湾へ出張し，新高山初の登頂に成功し，一躍時の人。

Bushidou・・・1899＝33歳： 「森林植物帯論」で日本初の林学博士の学位を取得。

ビヲノ国産化・1900＝34歳： 東京帝国大学農科大学の教授となる。

田中正造直訴1901＝35歳： 辰野金吾の相談の受け，東京市日比谷公園設計調査委員となる。

教科書疑獄・1902＝36歳： 内閣鉅毒調査会委員となる。

日比谷公園・1903＝37歳： 内閣勸業博覧会の審査員となる。日本初の洋風の日比谷公園が完成。
この間，多摩川上流の水源地林荒廃を見て，御陵林を東京府に譲渡させ，涵養体制整備に取り組む。

日露戦争終・1905＝39歳： 長野県県有林の顧問となる。

満鉄発足・・・1906＝40歳： 内閣の命で中国韓国へ出張。 “四分の一天引き貯金”の成果で利子が基本給与を上回り始める。

韓国反日暴動1907＝41歳： 内閣命で欧米各国へ出張し，ようやくドイツ再訪。腸チフス入院機会に，1日3頁執筆となり生涯続ける。

伊藤博文暗殺1909＝43歳： 内閣鉅毒調査会委員となるなど，公害問題にも積極的。

韓国併合・・・1910＝44歳： 内閣生産調査会の臨時委員となる。

大逆事件判決1911＝45歳：

明治天皇没・1912＝46歳：

多摩川水源林管理が東京市移管になると，会計処理で多額弁済。早くから東南アジアの将来性を指摘し，
大正政変・・・1913＝47歳： 内閣の命で，マレー半島・ジャワ・スマトラ・ボルネオ等へ出張。
第一次大戦始1914＝48歳： 農商務省の東京大正博覧会審査官となる。高等官一等に叙任。東京帝国大学評議員となる。
21ヶ条要求・1915＝49歳： 大日本山林会理事に選任される。内閣造営局参与となり，明治神宮造園を指導。
この間，全国各地の近代公園を次々手がけ，東大のイチョウ並木も実現。

本格政党内閣1918＝52歳： 日本庭園協合理事長となる。

ベルサイユ条約・1919＝53歳： 帝国森林会の理事となり同副会長となる。

大暴落・・・1920＝54歳：

原敬首相暗殺1921＝55歳： 埼玉学生誘掖会会頭。欧米へ出張。妻詮子が卒中で急逝。木曾の“寝覚の床”がダム底に沈むのを防ぐ。

水平社結成・1922＝56歳： 内閣第17次海外旅行に出張を命じられる。

関東大震災・1923＝57歳： 宮内省の神宮神域保護調査委員となる。

護憲三派圧勝1924＝58歳： 東京市の恩賜公園の常設議員となる。

円本時代始・1926＝60歳： 都市美協会の副会頭となる。帝国森林会の会長となる。

金融恐慌・・・1927＝61歳： *自ら提言して実現の定年制で東京帝国大学教授を退官したのを機に，財産の殆どを匿名で寄付。

共産党事件・1928＝62歳： 日本庭園協会会長となる。熊本阿蘇の篤志家に相談されるや，国立公園実現すべく奔走，

世界恐慌・・・1929＝63歳： 細川護立を戴く国立公園協会の副会長となる。東京市東京震災記念事業協会の顧問となる。渋谷町町議会議員に当選し，一期四年務める。

海軍軍縮条約1930＝64歳： 内閣国立公園調査会の委員となる。埼玉県秩父郡大滝村に所有の山林を県へ寄贈。

満州事変・・・1931＝65歳： 国立公園法が施行される。埼玉県人会副会長となる(会長は渋谷栄一)。大日本山林会名誉会員。内閣農林審議会臨時委員。内閣国立公園委員会の委員。埼玉学生誘掖会及び埼玉学友会の会頭となる。

五一五事件・1932＝66歳： 埼玉県が本多静六博士育英基金条例を制定。

国際連盟脱退1933＝67歳： 栃木県名勝地経営調査委員。日本庭園学会会長。千葉県立公園調査委員会顧問。

帝人疑獄事件1934＝68歳： 満州国の森林調査に出張。風景協会副会長。内閣神宮関係調査委員。

二二六事件・1936＝70歳： 都市美協会の名誉会員となる。

日中戦争始・1937＝71歳： 内閣の紀元二千六百年祝典評議委員会の委員となる。

健保+総動員 1938＝72歳： 東照宮三百年祭記念調査会委員長となる。

第二次大戦始1939＝73歳： 東京都の宮城外苑整備事業審議会の委員となる。

大政翼賛会・1940＝74歳： 大日本山林会の顧問となる。

日米開戦・・・1941＝75歳： 貯蓄増強・生産合理化研究会委員。

・・・・・・・1942＝76歳： 戦時貯蓄中央協議会の委員。東インド振興会顧問となる。

創価学会検挙1943＝77歳： 戦況悪化で，静岡県伊東の歙光荘に転居。

敗戦・・・1945＝79歳： *敗戦で手元に残っていた財産が紙屑となるも，楽天的生き方は揺るがず，
新憲法施行・1947＝81歳： 静岡県伊東町教育委員会育委員となる。

三大事件・・・1949＝83歳： 埼玉県への山林寄付の功績により記念碑建立。

朝鮮戦争始・1950＝84歳： 伊東市特別市法審議会委員。偽善が嫌になったと「私の財産告白」を出版し真実語る。

日米安保調印1951＝85歳： この年になって，50年前に作成した「人生計画表」を全面改訂。

メデー事件・1952＝86歳： 「幸福論」を発表後，静岡県伊東市の国立療養所で没した。

渡部昇一「財運はこうしてつかめ・明治の億万長者本多静六開運と蓄財の秘術」，平凡社百科事典，インターネット，